

# 中日会報

公益社団法人 中部日本書道会  
 編集事務局 名古屋市  
 〒450-0002 名古屋 45-19  
 中村区 名駅二丁目 8番 室番  
 桑山ビル 8階 C号 00番  
 電話 (583) 19000番  
 F A X (583) 19100番  
<http://www.cn-sho.or.jp>  
[info@cn-sho.or.jp](mailto:info@cn-sho.or.jp)  
 印刷 株式会社 荒川印刷

## あいさつ



理事長  
鬼頭翔雲

今年は例年に比べ桜の開花が早く、この地方でも四月の入学式を待たずして満開となりました。新聞、ニュースでは連日、アベノミクス、三本の矢、デフレ脱却、円安・株高等々の言葉を目にするのも多く、久しぶりに景気の良い見出しで何となく世の中が賑やかな雰囲気になってまいりました。しかし一方では、近隣諸国との緊張関係や、TPP問題等浮かれてばかりもいられない状況です。我が国の「行く先」について安穩としてばかりはいられないかも知れません。

さて、中日書道会も新年度(平成二十五年度)に入つて参りました。今年度の事業計画、予算計画につきましては、本年、二月十一日の理事会にて慎重に審議をして頂き、承認を賜りました。本年度は来年度の創立八十周年記念事業を視野に入れ、さらなる新規事業を組むことはいたしませんでした。例年行っておりません事業内容を高め、より充実した運営を目指してまいります。

先にも触れました通り、本会では来年、創立八十周年を迎えます。先人、先輩、多くの先生のご尽力、ご労苦のお陰を持ちまして今日の本会の隆盛を見るに至っております。事務局では、この創立八十周年記念事業を如何に企画、実行してまいるか検討を重ねております。本会にふさわしい記念事業になりますよう努力してまいります。次に、第六十三回中日書道展ですが、期日が間近に迫つ

てまいりました。この会報をお届けする頃には、作品は既に表装の段階かもしれません。公募会員の皆様には、しっかりと書き込まれ、内容ある作品作りにご奮闘下さったことと思ひます。

近年、中日展は僅かずつではありますが出品減が続いております。この傾向は、本展のみならず全国の書道展も同様であるようです。このような状況に対して歯止めをかけるべく、また本会の将来に向けての継続的發展を目指すためにも出品増に繋がるよう効果的な施策も考えて参らねばなりません。と同時に現在おこなっております若年層出品の拡大にむけての取り組みとご長寿出品者の献彰は今後も力を注いで参りたいと思ひます。

五月十一日から十三日までの三日間、中日書道展審査会・特別賞選考が行われます。厳正・公平な審査を致します。又、本年の展覧会は従来の三会場に電気文化会館を加え四会場にて開催されます。搬入・陳列・搬出 更には授賞式・祝賀懇談会等々、息を抜かない程過密な日程になることが予想されます。事務局一丸となつてこの最大事業に取り組んでまいりますので、会員皆様の格別のご協力を頂きますようお願い申し上げます。

それから国際交流事業(日・中・韓 国際書道展)についてお知らせいたします。この展覧会は従来、日本、中国、韓国と持ち回りで開催されて参りました。本年は、私ども、日本側(中日書道会)が当番予定でありました。そのため、昨年末より出品規定等を検討作成し準備を進めて参りました。この点に關しましては昨年末の「理事打ち合わせ」でもご案内申し上げ、ご承諾を頂きました。その後、両国書道団体にお願ひをすべくご案内を申し上げる段階において、お世話になつておられる中国書法家先生より「近時の事情により一時延期しておきましょう。中国側・韓国側には中日書道会の考えを正しくお伝えしておきます」というご連絡をいただきました。従つてやむを得ず、本年度の本会事業計画からこの国際交流事業を取り外す(休止する)こと

## 目次

- 1 理事長あいさつ
- 2 平成二十四年度 第二回理事会・評議員会(報告会)内容
- 3 祝賀懇談会
- 4 平成二十四年度講演会を開催して
- 9 上田賦草氏 日展中日賞C受賞
- 10 平成二十四年度 第二回理事会議案書詳細
- 11 新審査員・新正会員の承認
- 12 第六十三回中日書道展 当番審査員
- 11 国外旅行研修補助制度のご案内
- 12 塾総合保険のご案内
- 12 書道教室推薦看板申請制度のご案内
- 12 第六十三回中日書道展 当番審査員
- 12 第三十回読売書法展 当番審査員
- 12 第六十五回毎日書道展 当番審査員
- 21 新入会員・計報
- 21 平成二十五年度総会、中日展授賞式予告
- 21 支部だより(下半期)

## 平成二十四年度 第二回理事会・評議員会(報告会)内容

平成二十五年二月十一日(月・祝)午後二時三十分より名古屋観光ホテルにおいて、理事全員の出席のもと、次の内容について審議され、その後評議員への報告会が持たれました。

- 一、平成二十五年度事業計画(案)に関する件
- 二、平成二十五年度予算(案)に関する件
- 三、役員選任方法に関する件
- 四、参与及び評議員の承認に関する件
- 五、正会員の承認に関する件
- 六、審査会員の承認に関する件



第2回理事会・評議員会であいさつをする鬼頭翔雲理事長



第2回理事会

平成24年度 第2回理事会・評議員会  
高木大宇常任顧問地域文化功労者文部科学大臣賞ご受賞  
日展入賞入選・読売書法展・毎日書道展 受賞者

祝賀懇談会

祝賀懇談会を開催して

厚生部長 小島 瑞 柳

草木が春への芽吹きを始めた平成二十五年二月十一日（月・祝）、名古屋観光ホテルに於いて平成二十四年度第二回理事会・評議員会の祝賀懇談会が開催されました。松永清石副理事長の開会の言葉で始まり、公務のためご欠席の本会名誉会長海部俊樹先生に代わり、本会名誉副会長安藤滴水先生から「竹田寛先生の乳ガンについての講演会は、いつも以上に皆さんが熱心でした」というご報告と、「公益社団法人になって二年目に入り、一層頑張ってください」とのお言葉を戴きました。お忙しい中ご臨席頂きました二十一名の来賓の皆様を代表して、本会名誉顧問中日新聞社常務取締役事業担当の高坂毅様より、「巳年の巳は蛇が冬眠から目覚めて地上に這い出してくるのを表す象形文字で、再成、復活、生命力を表します。新しい年に向けて脱皮しましょう」とのご祝辞を頂戴しました。

続いて、本会常任顧問の高木大宇先生が、地域文化功労者文部科学大臣賞をご受賞されましたので、樽本樹邨副会長より記念品の贈呈、社中代表の青木清濤先生より花束の贈呈がなされました。高木先生からは「命ある限り頑張ります」と、八十三歳とは思えない力強いご挨拶を戴きました。

更に本年度日展入賞・初入選、日展東海展中日賞、読売新聞社賞、毎日会員賞受賞者の皆様に、樽本樹邨副会長より記念品が贈呈されました。おめでとうございます。

乾杯のご発声は本会名誉顧問東海テレビ放送常務取締役、河合信明様で、「書の力はすごい！日本の元気を創る」との熱いお言葉を頂戴し、祝宴が始まりました。午後八時、関根玉振副理事長の閉会の辞により、会は閉じました。出席者は四〇九名でした。



地域文化功労者文部科学大臣表彰  
受賞の高木大宇氏



乾杯の発声をされる東海テレビ放送 河合信明氏



来賓のあいさつをされる  
中日新聞社 高坂毅氏



樽本名誉副会長より第44回日展新入選者にレイがかけられました

# 平成二十四年度講演会を開催して

研究部長 廣 澤 凌 舟

二月十一日(月・祝)名古屋観光ホテルにおいて講演会を開催いたしました。

講師に三重大学医学部附属病院病院長、竹田寛先生をお迎えして「がん検診を有効に受けるために」という演題でご講演をいただきました。

先生は乳がん検診の第一人者であり、お話の端々に先生の明るく優しいお人柄が伺える講演会となりました。

約一時間、先生のユーモアを交えたお話に会場は笑いの渦、笑顔の絶えない講演会となりました。



受講者を引きつけたお話の竹田寛氏

専門的なお話をスクリーンを使って丁寧に説明いただき「がんの恐さ」「早期発見により完治する確率が格段に高くなる事」等、定期検診の必要性を改めて実感いたしました。

最後になりましたが、お忙しい中、熱心にご講演いただきました竹田寛先生に厚く御礼申し上げます。

来年も講演会を開催予定です。是非、多くの方にご参加いただきます様、お願い申し上げます。

## 平成24年度 講演会

日 時 平成25年2月11日(月・祝)  
16時45分～17時45分

場 所 名古屋観光ホテル

講 演 <sup>たけだ</sup> <sup>かん</sup> 竹田 寛 氏  
三重大学医学部附属病院院長  
NPO 三重乳がん検診ネットワーク理事長

演 題 「がん検診を有効に受けるために」

# 日展中日賞を受賞して

上 田 賦 草

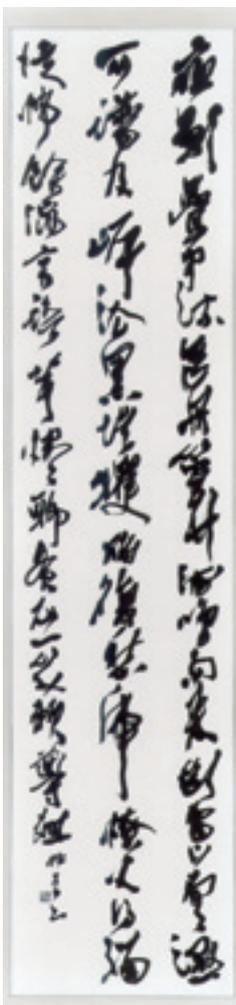
第四十四回日展におきまして、名誉ある中日賞を賜わり身に余る光栄と深く感謝申し上げます。

全く思いがけない事で、一報を耳にした時は、驚きで動揺を隠し切れませんでした。時間の経過と共に重圧へと変わって参りました。

受賞作は「徐渭詩」で、大自然の脅威と戦いながら挫折する事なく目的地に辿り着く船旅のプロセスを謳っています。全ての道に繋がる内容で撰文しました。形態は、行草の三行書きです。二行目に中心を置く事で、作品としての効果に配慮しました。重厚な中での軽快なリズム感、躍動感を表現しましたが課題の残る作品となりました。

この賞を励みとし、又この賞に恥じない様一層研鑽する所存です。今後共どうかよろしく御指導賜わります様お願い申し上げます。

最後になりましたが今回の受賞は、今は亡き師が一番喜んでくれた事と思えます。ほんとうにありがとうございました。



樽本樹邨名誉副会長から花束の贈呈を受ける上田賦草氏

平成二十四年度 公益社団法人 中部日本書道会

第二回理事会を実施

日 時 平成二十五年二月十一日(月・祝)  
場 所 名古屋観光ホテル

第二回理事会 議案書

平成二十四年度 公益社団法人 中部日本書道会

第二回理事會 次 第

- 一、開会のことば
- 二、理事長あいさつ
- 三、議 事

- (1) 平成二十五年事業計画(案)に関する件
- (2) 平成二十五年予算(案)に関する件
- (3) 役員選任方法に関する件
- (4) 参与及び評議員の承認に関する件
- (5) 正会員の承認に関する件
- (6) 審査会員の承認に関する件
- 四、閉会のことば

(1) 平成二十五年事業計画(案)に関する件

平成二十五年 事業計画(案)

- I 書道普及振興事業(公益目的事業 1)
- 一 展覧会等の事業

本会は、出展作品の審査を行う公募展である中日書道展を企画運営することによって、従来より、書道文化の普及発展に寄与していることは周知されていることである。加えて、初心者、若年層および地域の書道愛好家のために、これにふさわしい書道展の開催も必要不可欠である。そのために本会では、中日書きぞめ展、一宮支部学生展、半田支部学生書道展、西三河支部学生展、北勢支部展、濃飛支部展を出展作品審査を行う公募展として開催する。

また、書道芸術の発展のためには、書の技量の上達だけでなく、書に関する幅広い教養の習得も必要である。このため、本会では、書道教育研修会、公開講座、講演会、研修会を実施する。

- (1) 第六十三回中日書道展  
会期 平成二十五年六月十一日～六月三十日  
会場 愛知県美術館・名古屋市民ギャラリー栄・名古屋博物館・電気文化会館
- (2) 第六十四回中日書きぞめ展  
会期 平成二十六年三月二十二日～二十三日(予定)  
会場 ナディアパーク アトリウム(予定)
- (3) 中日支部学生書道展

第四十二回一宮支部学生書道展

会期 平成二十五年十一月二十三日～二十四日

第四十九回半田支部学生展

会期 平成二十五年七月

第四十六回西三河学生展

会期 平成二十五年七月五日～七日

北勢支部展

会期 平成二十五年七月二十六日～二十八日

第二十八回濃飛支部展

会期 平成二十五年七月二十六日～二十八日

第二十五回書道教育研修会

日時 平成二十五年十月

第十七回公開講座

日時 平成二十五年十一月二十四日

講演会

会場 電気文化会館

一宮(二月)半田(四月)、西三河(二月)、濃飛(六月)、岐阜(五月)

福祉事業(公益目的事業 2)

本会では、従来より社会福祉法人への募金による社会事業への協力奉仕を行っている。引き続き本年度も、会

II 福祉事業(公益目的事業 2)

本会では、従来より社会福祉法人への募金による社会事業への協力奉仕を行っている。引き続き本年度も、会

員のうち有志から募金を募り、社会福祉法人中日新聞社会事業団および社会福祉法人東海テレビ福祉文化事業団に寄付をおこなう。

(1) 二〇一三年チャリティー愛の募金

―しあわせ薄い人々に愛の手を―  
期間 平成二十五年十月～十二月

Ⅲ その他の事業（相互扶助等事業）

本会は、出展作品の審査を行わない公募展及び会員向け書道展として、壽書展及び各支部において支部展・支部選抜展を行う。

また、会員を対象として、本部講演会を開催して、会員の資質向上に寄与することとする。

支部においては、会員向け講習会・講演会を行い支部会員の資質向上に努めている。

このほか、本会では会員の研鑽・資質向上のため、本部および各支部において記念事業、研究研修会、研修旅行を行う。

会員の福利厚生のために、必要とする事業を行う。

(1) 出展作品の審査を行わない公募展及び会員向け展覧会

① 第二十二回寿書展

会期 平成二十五年十一月十九日～二十四日

会場 電気文化会館

② 支部展・支部選抜展

・第五十回一宮支部展

会期 平成二十五年十一月二十三日～二十四日

会場 一宮スポーツ文化センター

・第四十七回半田支部展（五十周年記念事業）

会期 平成二十五年九月

会場 雁宿ホール

・第四十六回西三河支部会員

会期 平成二十六年二月十九日～二十三日

会場 岡崎市美術館

・東三河支部展

会期 平成二十五年七月十六日～二十一日

会場 豊橋市美術館

・東三河支部選抜展

会期 平成二十六年二月四日～九日

会場 豊橋市市民文化会館

・第二十八回中南勢支部展

会期 未定

会場 三重県立美術館

・岐阜支部選抜展

会期 平成二十五年九月十三日～十五日

会場 シネックスホール

(2) 講演会

本部（二十六年二月）、東三河（七月）、北勢（十一月）

(3) 講習会

東三河（十月）、岐阜（十一月）

(4) 研究会

半田（四月）、西三河（四月）

(5) 研修会

本部（史跡探訪研修旅行他・時期未定）一宮（十月）、半田（十一月）、東三河（十月）、岐阜（十一月）、西三河（十月）、濃飛（十月）、北勢（二月）、中南勢（十一月）

(6) 福利厚生事業

① 塾総合保険

② 会員交流会

(7) 老人会色紙贈呈

半田支部においては、例年、地域（半田市・阿久比町・東浦町・武豊町・美浜町・南知多町）の老人会に対して色紙を贈呈して敬老の意を表している。

期日 平成二十五年八月

(8) その他各種事業

① 書道に関する調査研究および発表

② 書道教育者の推薦書および看板の交付

③ 外国研修旅行補助

④ 組織拡大事業

・会員章（門章・襟章）の交付

・会員名簿の発行

⑤ 広報活動事業

・中日会報・支部会報の発行

・ホームページによる情報提供

⑥ 資料文献収集保存事業

⑦ 書道功労者等顕彰事業

⑧ その他







# 平成二十四年度 第二回理事会 承認事項 新審査会員・新正会員の承認

## 審査会員の承認に関する件

公益社団法人中部日本書道会展  
覧会開催規定第九条の規定によ  
り、下記の者を審査会員委嘱の  
承認を求めめる。

この承認は平成二十五年四月一  
日付けとする。

### ●一科審査会員

#### 第一部(二十一名)

伊藤 春瑤	内田 翠聲
大上 瞳花	大平 雨仙
角野 松鶴	河合 翠月
倉田 瀨碧	齊藤 千秋
桜場 龍峰	佐山 美楓
澤野 麦郎	寺家 三令
清水 流香	鈴木 華瑤
中川 貴舟	本田 秀岳
増田 春暉	間瀬 白泉
毛利 恵風	矢野 美香
吉田 紅房	
天野 月清	小野田景月
北村 光苑	杉田 佳月
鈴木 京楓	田中 光穂
鈴木 香秋	永井 恵子
元橋 逸舟	
齋藤 芝香	

#### 第二部(八名)

石原 進子	佐々木宏潤
田中 幸江	野村 清涼
萩原 祐子	松下 嬉春
松原 紫園	保田 翠溪

#### 第三部(十一名)

石本 正治	梅村 絹子
岡崎 鷗風	加納 玉珠
小林 恵風	朽久保律子
橋爪 淳歩	長谷川鸞卿
比良 公美	増田 蘭苑

### ●二科審査会員

#### 第一部(四十二名)

相崎 紫憬	荒木 泉蓉
飯田 瑤華	石川 玄風
伊藤 虹川	今井 寿泉
内本 久園	梅田 楊華
江崎 一穂	大鹿 珠翠

#### 第二部(四名)

黒川 静美	伊奈 美峰
安部 欽子	中島祐三子

#### 第五部(四名)

安藤 惇	岡田 麗峰
杉浦 琇鈴	藤井 康子

## 正会員の承認に関する件

公益社団法人中部日本書道会定  
款第五条第一号の規定により、

下記の者を正会員としての承認  
を求めめる。  
この承認は平成二十五年四月一  
日付けとする。

### ●第一部(一三五名)

相原 翠月	浅井 溪翠
淡路 智広	有賀 微風
石川 圭玉	池田ひとみ
五十川江陽	石原 惠秋
伊藤 谿石	井出 恭喬
稲垣 舞夏	稲垣 輝彩
植田 連陽	岩崎 清風
内山 雅舟	鶴飼 清襟
遠渡 季音	梅村 香苑
大久保心雅	大岡 祥園
岡本 覃溪	小川 石蘭
尾関 克則	小原 芳華
垣本 松風	小原 淑芳
香月 恵里	梶浦 正子
川瀬 桃紅	勝山 滋紅
神辺 尚青	川本 茅穂
木本 竹壽	楠本 秀華
工藤 尚篁	國松 陽楓
栗木 美楓	桑原 優月
小石 順子	桑原 香雪
小島 佳桜	小浦 祥雪
小島 静珠	小嶋 玉寶
小林 洋子	小林 修堂
榊原 孟仙	小森 麗風
峪口 紅霞	酒向美恵子
佐藤 竹苑	佐藤 紅蘭
清水 美苑	塩田 杏園
白石 光妙	清水めぐみ
鈴木 春瓊	杉浦 敬山
墨 千紘	墨 沙織

### ●第二部(二十名)

加藤 昌子	小野由紀子
岡田 容子	大石 祥葉
伊藤 弥生	伊藤 恵子
生駒 姫城	
渡邊 綾乃	
若松 翠泉	
吉田 翠	
湯川三枝子	
山本 麻里	
山口 如泉	
安井 雨恵	
村瀬 紫苑	
村井 恵岳	
箕浦 年樹	
間野 成美	
松原 澄秋	
牧 奈緒美	
前川 直哉	
堀場 水香	
藤原 芳龍	
日比野柳翠	
日栄 白蓮	
林 彩香	
濱屋 大樹	
野田 昌寛	
野田 春華	
西山 美翔	
新津 美泉	
中村 浩水	
中島 知泉	
長坂 竹華	
永岡 沙弥	
戸田 夏舟	
近松 芳玉	
谷口 翠華	
武内 利意	
田中繪三奈	
田口 夏帆	
高取 翠揚	
高橋 素花	
関戸 華月	

### ●第三部(三十名)

青木 榮俊	安藤 絹子
伊藤 清雅	伊藤 遥
稲垣 喜由	大島健太郎
大谷小百合	岡田実稚子
神谷 秀花	河合百々子
川瀬 裕美	川西 悠華
小島 正人	小林 翠月
佐藤 悠佑	清水 紅春
下山 圭子	鈴木 美峰
武田 紫水	田中 詩織
田中 夕穂	塚田 琴乃
羽飼 純奈	萩原由希子
花田 佳子	古橋 琉溪
森 加奈子	山田 玉蓉
山田 千夏	山田 直美

### ●第四部(十一名)

奥田 光子	片桐千賀子
加藤 珪風	佐伯恭仁子
椎屋 沙香	志賀くに子
鈴木 千晴	中野 照子
花井 紅霞	藤村 美穂
吉兼 理樹	

### ●第五部(十三名)

伊藤 茂	稲垣 泗郷
大原 裕美	加藤 比敏
日下部響風	榊原 悠園
榊原 有光	沢田 綾香
高島 濤翠	帯刀 溪石
松岡 清	山田 清香
山田 美鈴	

# 第六十三回中日書道展運営委員会を開催

第一事業部長 伊藤仙游

満開の桜の花が散り失せてしまいそう強い風が吹いた、四月七日(日)午後五時よりホテルキャッスルプラザに於いて、第六十三回中日書道展運営委員会が開催されました。

名誉副会長・常任顧問・理事・監事をはじめ、事務分掌各部の副部長・主任の先生方、総勢一四五名のご参加をいただきました。

総務部長青木清瀧先生の司会により開会、理事長鬼頭翔雲先生が「桜も散ってしまいそうなのの中、樽本、安藤両名誉副会長をはじめ、大勢の方にお集まり頂きありがとうございます。本年は愛知トリエンナーレのため、電気文化会館を含めた四会場で開催する事になりました。中日書道展が益々充実致しますよう、皆様のご協力をお願い申し上げます。」と挨拶されました。



乾杯の発声をされる 安藤名誉副会長

乾杯の発声をされる 安藤名誉副会長

た。続いて伊藤昌石事務局長より名誉副会長、常任顧問のご紹介、事務分掌部長、副部長ご紹介、協賛会員のご紹介、第一事業部長より日程等の説明の後、各部に分かれての協議へと進みました。副部長、主任の先生方も熱心に討議、打ち合わせを行われ予定時間を過ぎる程で、皆様の熱意に頭の下がる思いが致しました。

この後懇談会に移り、名誉副会長安藤滴水先生から「満開の桜のように中日書道展に沢山の作品が出品されますように」と乾杯のご発声を頂きました。和気藹々の空気の中楽しい懇談の輪が広がり、時の過ぎゆくことも忘れる程でした。

この後名残惜しさを感じつつ予定の時間となり、常任顧問中林露風先生のご挨拶で会を閉じる事となりました。

いよいよ第六十三回中日書道展が始動致しました。皆様の絶大なご協力を、是非ともお願い申し上げます。

## 第63回中日書道展 運営委員会 次第

平成25年4月7日(日)

ホテルキャッスルプラザ 午後5時~

進行 青木清瀧 総務部長

- 1 開会のことば 青木清瀧 総務部長
- 2 理事長挨拶 鬼頭翔雲 理事長
- 3 副会長・常任顧問紹介 伊藤昌石 事務局長
- 4 事務分掌役割紹介(部長、副部長) 伊藤昌石 事務局長
- 5 協賛店出席者紹介 伊藤昌石 事務局長
- 6 第63回中日書道展日程等説明 伊藤仙游 第1事業部長
- 7 質疑応答 伊藤昌石 事務局長 伊藤仙游 第1事業部長
- 8 各部打ち合わせ(20分程度)
- 9 閉会
- 10 懇談会 乾杯 安藤滴水 名誉副会長 閉会のことば 中林露風 常任顧問



# 第六十三回 中日書道展 日程表

四月十五日(月) 書類(取扱店へ)

四月十九日(金) 書類搬入(業者) 本部へ中部日本書道会本部 受付 午前10時~11時 作業 午後3時まで

愛知県産業労働センター 7F 展示場

五月十日(土) 二科審査・依嘱・無鑑査・一科・二科裏打ち作品搬入 午前9時~午後11時

五月十一日(日) 二科・鑑査・一科・鑑査 一部・二部・三部・四部・五部 午前9時~午後5時

五月十三日(月) 特別賞選考(依嘱・無鑑査) 裏打ち作品搬出 午前9時~午後3時

名古屋市民ギャラリー栄 六月十日(日) 無鑑査(一部 桜花賞を含む) 搬入陳列 午後一時~午後五時

六月十一日(月) 展覧会役員作品展示 第一日 午前九時半~午後六時

六月十二日(火) 展覧会役員作品展示 第二日 午前九時半~午後六時

六月十三日(水) 展覧会役員作品展示 第三日 午前九時半~午後六時

六月十四日(木) 展覧会役員作品展示 第四日 午前九時半~午後六時

六月十五日(金) 展覧会役員作品展示 第五日 午前九時半~午後六時

六月十六日(土) 展覧会役員作品展示 第六日 搬出 午後四時~午後六時

電気文化会館 東・西ギャラリー 六月十日(日) 無鑑査(二部・三部・四部・五部 桜花賞を含む) 搬入陳列 午後一時~午後五時

六月十一日(月) 展覧会役員作品展示 第一日 午前九時半~午後六時

六月十二日(火) 展覧会役員作品展示 第二日 午前九時半~午後六時

六月十三日(水) 展覧会役員作品展示 第三日 午前九時半~午後六時

六月十四日(木) 展覧会役員作品展示 第四日 午前九時半~午後六時

六月十五日(金) 展覧会役員作品展示 第五日 午前九時半~午後六時

六月十六日(土) 展覧会役員作品展示 第六日 搬出 午後四時~午後六時

愛知県美術館 ギャラリーI 審査顧問・特別出品・二科審査委員・二科審査委員・依嘱(一部・二部・三部・四部・五部 海部俊樹賞・大賞・準大賞を含む)・無鑑査(中日賞) 第一日 午前10時~午後六時

六月十七日(日) 二科陳列 二科審査委員・二科審査委員・二科審査委員・二科審査委員 第二日 午前10時~午後六時

名古屋博物館 六月十七日(日) 一科搬入・陳列 搬入陳列 午後一時~午後五時

六月十八日(月) 一科展覧会 第一日 午前九時半~午後五時

六月十九日(火) 一科展覧会 第二日 午前九時半~午後五時

六月二十日(水) 一科展覧会 第三日 午前九時半~午後五時

六月二十一日(木) 一科展覧会 第四日 午前九時半~午後五時

六月二十二日(金) 一科展覧会 第五日 午前九時半~午後五時

六月二十三日(土) 一科展覧会 第六日 午前九時半~午後五時

六月二十四日(日) 休館日

六月二十五日(月) 一科搬出・二科搬入 搬出搬入 午前九時半~正午

六月二十六日(火) 二科陳列 陳列 午後一時~午後五時

六月二十七日(水) 二科展覧会 第一日 午前九時半~午後五時

六月二十八日(木) 二科展覧会 第二日 午前九時半~午後五時

六月二十九日(金) 二科展覧会 第三日 午前九時半~午後五時

六月三十日(土) 二科展覧会 第四日 午前九時半~午後五時

※授賞式・祝賀会 六月十六日(日) ウェスティンナゴヤキャスル 搬出 午後三時~午後五時

### 国外旅行研修補助制度のご案内

本会では、会員（準会員・正会員）が、視野を広め、見識を高め、教養の向上をはかることを目的に外国旅行をする場合、その費用の一部を補助する制度があります。

#### ①補助の対象者

会員期間が満十年以上の者とする。

#### ②補助金額

旅行先及び旅行日程にかかわらず二万円とする。

#### ③補助回数

会員期間中一回とする。

#### ④申請等の手続き

補助を受けようとする場合は、外国研修旅行補助申請書を提出する。

#### ・申込期日

原則として旅行予定日の一ヶ月前までに提出する。

#### ・旅行の変更

旅行の予定変更又は中止の場合は、直ちに外国研修旅行変更（中止）届を提出する。

#### ・添付書類

旅行費用を払い込んだ会員は、申請書に受領書（旅行先・日程等明記）又はその写しを添付する。

#### ・補助金の交付

申請書を審査し、適格者に対して銀行振込により交付する。

#### ・事後報告

旅行を終了した会員は、速やかに外国研修旅行終了報告書を提出する。

#### ⑤補助金の返還

補助金を交付した後に、旅行中止の場合は、補助金は変換させるものとする。

会員の皆様は、この補助制度を大いに利用して下さい。

担当 総務部

### 塾総合保険のご案内

会員各位におかれましては、平素より書道芸術の高揚および、書道教育の振興普及に専心されておられることと、推察いたしております。

さて、書道教育普及のためにご指導いただいている先生方に、塾生の万一の時に備えて塾総合保険への加入をおすすめ致します。

この保険は本会と保険会社が直接契約しているものであるため、少人数での加入ができ、一人年額一二〇円程で大きな保障が得られます。保険期間は十月一日から翌年十月一日までとなり、年度途中での加入の場合は加入日より二十五年十月一日までとなります。すでに加入中の先生方には八月中旬に書類をお送りいたしますので、お忘れのないよう契約更新をお願いします。

尚資料請求、又は新規お申し込みの方は、本部までご連絡下さい。

担当 厚生部

### 書道教室推薦看板申請制度のご案内

本会では、書の勉強を希望する人々のために、また書道の優れた指導者を、広く一般の人々に紹介することを目的として書道教室等の推薦制度を実施いたしております。

この制度は、書道教室を経営する会員の先生方を側面よりバックアップするもので、教室または指導者に対して推薦証と推薦看板をひと組として、希望される会員に有料で交付するものがあります。（左記参照）

交付にあたっては、この制度の内容から、誰にでも無条件というわけにはまいりません。

資格者は本会の正会員です。

ただし、準会員の方は、中日展に出品されている方及び本会が主催する書道教育研修会を受講された方に限ります。

記

○書道教室推薦証等交付申請書一通

（申請書は本部へご請求下さい）

○推薦証（別記）

○推薦看板（写真）

○アクリル製、巾15cm×長さ60cm、指導者名を記入いたします。

○申込資格

本会正会員及び選考会で認められた準会員

○推薦手数料 二五、〇〇〇円

（承認後ご連絡いたしますので振替用紙にてお振込み下さい。）

担当 教育部

公益社団法人

### 中部日本書道会推薦教室

指導者 ●●●●●

第●●●号

### 推薦証

右の者は書道並びに書写教育の優れた指導者として認められるのでここに推薦する

平成 年 月 日

公益社団法人 中部日本書道会

第 号

※このページに関する質問等は本部事務局迄ご連絡下さい。

### 中部日本書道会書道教室 推薦証等交付申請書

平成 年 月 日

公益社団法人 中部日本書道会理事長 殿

申請者 住所  
氏名 (姓名) ④  
(電話番号 - - )

下記の通り書道教室等の推薦を受けたいので、手数料を添えて申請します。

教室名			
教室住所	〒		
ふりがな			
指導者名 (申請者名)	中日書道展 格	資	
備考			

(注) 指導者の書歴は裏面のとおりで

受付年月日 平成 年 月 日  
交付年月日 平成 年 月 日  
交付番号

# 第63回 中日書きぞめ展

出品点数 16,964点 (昨年比 +130点)

会期 平成25年3月23日(土)・24日(日) 会場 ナディアパーク 2階 アトリウム

授賞式 日時 平成25年3月24日(日) 午後2時  
式場 ナディアパーク 3階 デザインホール



満員の授賞式会場



上位入賞者



審査風景

## 第六十三回 中日書きぞめ展入賞者

〔審査〕

平成二十五年二月二日(土)、本部に於いて四十一名の審査員によって厳正に審査され、入賞・入選者が決まりました。

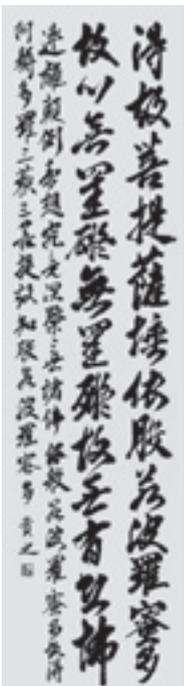
### 文部科学大臣賞を受賞して

南山高等学校(男子部) 二年 小川 貴之

「音楽家とは職業でなく生き方だ。」小説を読んでいる時この言葉に出会いました。私は音楽家を書家に置き換えました。

私が書道始めたのは七歳です。書道というより習字でした。幼い私に道を感じさせる要素はありませんでした。しばらくして「上手な字を書きたい。」と思いました。思うように書けずもどかしい思いをする事も多かったです。高校生になって本格的に臨書を始め、書に対する姿勢が変わりました。上手く説明できませんが、書を通じてその人の世界観に少し触れる感覚があります。書という芸術の可能性を感じると同時に自分の可能性の広がりも感じました。この頃から習字が書道に変わった気がしました。こうして振り返ると、書は自分の生き方の一部だと確信しました。私はまだ未熟です。文部科学大臣賞を受賞し、とても嬉しく思う反面、すべては先生のご指導のおかげと断言できます。これからもっと精進していきたいです。

文部科学大臣賞受賞作品



賞状とトロフィーを手に



三重県知事賞 中二 岩間 早紀

龍翔雄飛

三重県知事賞 小六 守山木乃芽

初夢宝船

三重県知事賞 小四 福岡 桜

自然の美

- 松岡 小加 山内 菜摘 谷口 友哉 中川 捺稀
- 三浦愛彩美 ○小学六年 西尾 さち 服部 真由
- 山口 宗武 荒川 晃大 服部 泰斗 松平 佳乃
- 宮原 佑果 岩谷 梨瑚 山本 京香 ○高校一年
- 山田真悠子 大谷 悠加 ○小学四年 石島 美来
- 中学一年 小栗 礼登 浅見由佳子 磯野 綾花
- 浅野由希恵 小牧 唯衣 日野 夏歩 大島 夏緒
- 荒井 嵩貴 佐藤 千晴 松山 あや 大藪凜太郎
- 石黒 達也 高田 有紗 理事長賞 中村 樺純
- 太田 菜月 都築 恵実 ○高校三年 深谷 麻実
- 勝川 美咲 永治 陽夏 島内かおり 藤代 真帆
- 篠田紗都季 日比野成華 吉岡 涼子 ○中学三年
- 田中 美有 森 愛捺 ○高校二年 家田 昌明
- 寺田涼太郎 山本亜佑美 井川 伸代 伊東 真由
- 殿村 泰葉 米川 幸来 大谷侑里香 植村 萌香
- 中山 亜澄 ○小学五年 大畑 諒真 宇都 愛梨
- 水野 百花 岡 あかね 鬼頭友梨恵 大坪 愛依
- 安田 紀保 柴田 真衣 杉浦 里奈 大橋 拓実
- 定盛 由奈 奈良 桃花 坂本 友依 伊藤 駿
- 鈴木 智子 松田 理沙 勢力 颯太 水野 遥子
- 竹内 奏絵 山田菜々香 竹内 華音 吉川 綾華
- 鳥居 季代 山田 真由 田中 陽菜 林 杏美
- 鳥居 礼 ○中学一年 樽本 芹 加藤 愛菜 岩瀬 優希
- 長尾 春奈 浅場 紫 東城 弘直 前田 美紀
- 中津 摩耶 安達 萌乃 春田 好美 前田 直輝
- 西村 有加 井谷 絢菜 松原 知里 上ヶ平 柚歩
- 長谷川恭加 市川 真名 母袋利輝也 三宅 麻美
- 服部 夏野 大嶋 莉衣 和田 朗頼 阿藤美津季
- 福重 利佳 小野 佳祐 ○小学五年 植田 夕貴
- 真野 綾花 勝又 菜央 岩本 昂大 松田 弘美
- 真野友梨香 神谷 早紀 太田 琴葉 栗林 佑
- 水谷 郁生 神谷 泉帆 太田 直治 高久 佳雅
- 宮崎 舞由 佐々木里寿 竹内 舞 早川真理子
- 矢島 里帆 澤木 亜美 辻本 望叶 萩野 聖菜
- 山田 瑞穂 瀬尾和花子 中川楓美恵 仲田 萌子
- 山田 実嬉 長尾 周汰 松波 孝子 石川 真樹
- 横川 花香 藤田 麻友 丸山 祐樹 小宮山 慧
- 吉原 裕歩 舟橋 優典 ○小学四年 村瀬 佳歩
- 中学二年 市川 綾乃 山下 巴菜 河合 剛毅 山口 賞子
- 市川みずほ 山田 瑞奈 河合菜々子 久保田真由 森川 諒子
- 岩月友貴乃 ○小学六年 栗野 志帆 櫻井奈津美 平田 あゆ
- 牛田 陽子 今井 大地 柴田 裕平 ○小学三年 片野 美帆
- 岡嶋 夏海 今井 芳美 ○小学二年 藤岡 友理
- 海田 理恵 岩鶴 果奈 伊藤 早由 藤津 光晃
- 岸本恵利佳 上田 裕基 永田 彩乃 山口詩央里 小笠原 隆
- 北村 奈由 内川 桜 林 花音 ○小学一年 脇田 仁美
- 佐藤あずさ 梅田 日和 北村 美優 宇野英里香
- 澤 橘平 大橋明日香 坂井田江莉 市田 佳慧
- 清水 麻緒 奥谷 泉美 葛西 真由 ○小学一年 若杉 怜華
- 杉本佳菜子 杉本佳菜子 葛西 真由 ○小学一年 市橋 歩大
- 田中 もえ 加納 杏珠 北野 有紗 伊藤 翼
- 田上 日向 北野 有紗 市橋 歩大 千田 文博
- 角田ななみ 友田 真悠 酒井 清花 ○高校三年 後藤ゆき乃
- 友田 真悠 酒井 清花 ○高校三年 後藤ゆき乃
- 中村南名子 後藤ゆき乃
- 長崎 遥子 河野 真佳 ○中学二年 佐藤 育美
- 岩田 美耶 中村 寧々 若杉麻祐子
- 水野 和子 道前 知佳 大友 美侑
- 吉川 綾華 嘉陽 真由 上田 真央
- 林 杏美 大谷 美優 長屋 桂太
- 岩瀬 優希 安田 有沙 岩田 陵佑
- 渡辺 裕也 山本 侑紀 会田 遥奈
- 前田 美紀 前川 直輝 石井 風寧 加藤 優
- 前川 直輝 佐藤 優介 川口 明里 弓 春菜
- 川口 明里 鈴木友実菜 樋口 直美 大友 綾奈
- 樋口 直美 堀井 美里 永谷 美紅
- 小野木洗介 宮本 歩 藤田 希菜
- 堀井 美里 廣瀬由希菜 藤田 希菜
- 宮本 歩 高久 佳雅 井川 綾子 磯辺夕芽果
- 井川 綾子 羽根田菜摘 大矢 愛永 林 里保
- 羽根田菜摘 大矢 愛永 寺村 茉莉 龜山 哲平
- 寺村 茉莉 安藤 雅 服部 結花 中井千恵子 上野 里奈
- 服部 結花 江上麻遊子 北原 珠里 中井千恵子
- 江上麻遊子 中谷 有沙 堀田奈菜恵 後藤映里奈
- 中谷 有沙 今枝 佑美 上島 七波 伊藤 佑樹
- 上島 七波 長谷 瑞樹 伊藤 可子 藤澤 直樹
- 長谷 瑞樹 中川 郁 永井 里奈 上條 里菜
- 中川 郁 永井 里奈 石田 麻結 久米 俊也
- 山口詩央里 小笠原 隆 杉山 友菜 櫻内 菜月
- 山口詩央里 小笠原 隆 杉山 友菜 櫻内 菜月
- 川島あさみ 志村 晴美 久德 遥香
- 福田 隆太 関 初音 小林 桃佳
- 福島 彩子 山下みらの 大杉 幸正 岡 大樹
- 福島 彩子 山下みらの 大杉 幸正 岡 大樹
- 武田 桃佳 蟹 すみれ 小島 悠生
- 大谷 咲良 村井 文美 若杉麻祐子
- 柳生 櫻 板谷 覚子 谷口 実咲
- 今泉 菜那 久田美奈子 荒川 公寛 鈴木ことか
- 本田 茜 村上 実野 宮澤みのり 竹山三菜美
- 田村 楓 田辺 明里 八木 涼芽 今村 裕一
- 田村 楓 田辺 明里 八木 涼芽 今村 裕一
- 伊藤 萌絵 鈴木ふゆ香 川原 東子
- 伊藤 萌絵 鈴木ふゆ香 川原 東子
- 大橋 知生 伊藤 奈那 ○中学一年 西川 奈那
- 大橋 知生 伊藤 奈那 ○中学一年 西川 奈那
- 細井真悠子 今井 みく 河村 唯花
- 細井真悠子 今井 みく 河村 唯花
- 松永 純奈 石田 七恵 今井 友理
- 松永 純奈 石田 七恵 今井 友理
- 高坂 優太 林 宏憲 谷口 綾
- 高坂 優太 林 宏憲 谷口 綾
- 岩本 智風 藤 有紗 岩本 智風
- 岩本 智風 藤 有紗 岩本 智風
- 山本 悠生 山本 悠生 山本 悠生
- 山本 悠生 山本 悠生 山本 悠生

名古屋市長賞 高二 鈴木 誠人

青雲志を遂げ、夢を現実に変える。そのための第一歩は、自らを磨き、知識を蓄積すること。そして、その知識を社会に還元し、人のためになることを目指す。その姿勢が、君の成長を促し、未来を拓く力となる。

名古屋市長賞 中二 久田 真代

空想の転換。夢を現実に変える。そのためには、空想を現実へと変換する力が必要。その力こそが、君の成長の鍵となる。

名古屋市長賞 小六 清水 綾香

夢語る友。夢を語る友は、人生の大きな支えとなる。その友を大切に、夢を叶えるまで努力し続ける。

愛知県教育委員会賞 高一 石黒 優香

百歩則鵬、萬里則鳳。百歩を歩くと、鵬が飛ぶように。萬里を歩くと、鳳が舞うように。夢を叶えるには、小さな一歩を積み重ねることが大切。

愛知県教育委員会賞 中一 深谷 侑以

人類の幸福。人類の幸福を追求することは、人類の義務である。そのために、自分自身を磨き、社会に貢献する。

愛知県教育委員会賞 小五 安藤 萌梨

初春の光。初春の光は、希望の光である。その光を追い求め、未来を輝かせる。

岐阜県教育委員会賞 高三 岡村 和音

廣川玉寶蘭汁。廣川玉寶蘭汁は、人生の味である。その味を噛み締め、人生を味わう。

岐阜県教育委員会賞 中三 石黒明日香

功曹魏靈藏。功曹魏靈藏は、人生の師である。その師を慕い、人生を学ぶ。

岐阜県教育委員会賞 小四 市橋 宙大

初ゆめ。初ゆめは、夢の始まりである。その夢を叶えるまで努力し続ける。

三重県教育委員会賞 中三 山本 彩織

萬福雲歸。萬福雲歸は、人生の道である。その道を歩み、人生を味わう。

三重県教育委員会賞 中二 村上 歩

龍池望五雲。龍池望五雲は、人生の景である。その景を眺め、人生を味わう。

三重県教育委員会賞 中一 鶴口 夏菜

新陽鶴舞。新陽鶴舞は、人生の舞である。その舞を舞い、人生を味わう。

名古屋市長賞 高二 宇野安理沙

水と九年。水と九年は、人生の流である。その流を流し、人生を味わう。

名古屋市長賞 中三 長谷川修大

旅立ちの春。旅立ちの春は、人生の始まりである。その始まりを喜び、人生を味わう。

加藤 美里	清水 千尋	中谷 優音	橋本 京香	辻 帆乃華	西嶋 望来	柴山 莉奈	石原 莉巨	望月 翔平	久保田ゆりこ	伊藤あかり	大久保愛華	佐原 由莉	高木はるな	北村 香澄	中野 響子	渡辺 萌香	鈴木 麻紘	大地 那月	太田 有香	鈴木 静香	柴田 混介	宇佐美志穂	中嶋 爽翔	佐藤 瑞花	中村 萌愛	大場菜々紀	立松 里菜	生田ひかる	廣川 瑞樹	横井 有紗	本田 麗	高橋 洋香	近藤 要太	梶原 洗哉	森田 稚菜	松原 葵	山田 悠乃	神谷 星	佐藤 万侑	坂山 詩奈	溝口 真梨	中嶋 萌乃	青山 夏海	榊原 佑佳	谷 陽花	今木 麻衣	谿花 優羽	山下 若奈	古谷 昌暉	浅野 杏佳	伊藤 紗希	野村 侑以	加藤 南	野田 結愛	野田 亮良	神谷 真緒	原田 真緒	久保なつみ	石原 風彩	清水万里子	野田 瑞希	米田 琴音	吉田あつみ	仲野 桃子	林 千夏	坂 侑紗	世古口 董	山田 菜摘	水口 奈々	島田 魁	成瀬 若奈	小本 曾 杏	松岡美代子	三輪 葉菜	橋本 佳奈	伊藤 愛	山本 美風	津留 圭佑	伊藤 駿介	渡辺 直登	森 千尋	山内 理加	西岡 亜未	杉本 真河	北口 翔也	前田 悠有	望月 祐奈	鈴木 友梨	芝 優里花	秦 来夏	岩田 美月	牧野 友恵	辻 楓花	奥田 彩絵	小島 圭人	芦田 栞奈	朝河美津綺	鈴木 朝日	幸野 朱里	横井佐世子	岩佐 菜々	平松 紗季	早野 将成	則武 朋夏	早川 幸穂	戸崎 未涼	牛山 珠里	小川 拓真	菅谷 郁美	堀 美衣	堤 真奈	小瀬真里奈	深谷 海俊	塩屋 拓未	中川 和	箕浦つぐみ	熊谷 拓海	加藤 もも	斎藤 清香	阿部日 南	荒城 新菜	永家 汐菜	暮石 百恵	吉見 綾	大倉 里紗	山田 千紗	鈴木亜紗花	加賀 文野	柘植あゆみ	久野 愛実	福田ひより	喜田友里香	稲垣 萌美	舟橋亜梨沙	柴田 美羽	棚橋 史佳	木下紗矢香	松田 百音	松下 莉奈	野田紗也香	加島 靖大	大橋 優佳	田中 佑奈	高井 心夢	大野梨々香	近藤 利佳	服部 亜虹	齋藤 千春	安藤 数真	神野 彩香	中内 美京	林 沙紀	久野 早紀	谷 育磨	江口 桃子	深瀬 有香	高橋 沙希	山崎惠里佳	岡田 滂奈	猪本 麻友	田中 麻美	岩崎 舞	森 万佑子	瀬戸 隆樹	弘中 芳彬	花井 志帆	山岡 奏	神谷ひなの	村瀬 優希	岡田 清花	中谷 文香	後藤 拓真	中尾 恭子	今村 晶	小田有梨那	吉戸 菜月	前田 早慧	酒井 純恋	内田 菜月	田口 祥	村田 琴美	西川 優麻	隅山 佳輝	福島 千鶴	渡辺 裕貴	広瀬 結衣	小松 由佳	杉浦 真衣	長坂 文菜	林 沙紀	久野 早紀	谷 育磨	江口 桃子	深瀬 有香	高橋 沙希	山崎惠里佳	岡田 滂奈	猪本 麻友	田中 麻美	岩崎 舞	森 万佑子	瀬戸 隆樹	弘中 芳彬	花井 志帆
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	------	-------	-------	-------	------	-------	--------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------

名古屋教育委員会賞 小六 水谷 悠生  
 故郷の春

中日書道会賞 高二 山本 心  
 篇書亭際顯慶合  
 建 諷誦仙之精

中日書道会賞 高一 長谷川光平  
 耐雪梅花香

中日書道会賞 高一 水谷 梨紗  
 夫欲無道之量務  
 以天下為心者

中日書道会賞 中三 齊藤 詩歩  
 不斷の努力

中日書道会賞 中二 大谷 遙香  
 惠風和暢

中日書道会賞 中二 押村 俊佑  
 新春福祿寿

中日書道会賞 中一 竹内 眞彩  
 清新の気

中日書道会賞 中一 田中 優泉  
 春待つ心

中日書道会賞 小六 後藤 花梨  
 夢の実現

中日書道会賞 小六 松下ちひろ  
 東雲春光

中日新聞社賞 高二 杉浦 里佳  
 夢破は亭山驛外詩成  
 憧影る聲中

中日新聞社賞 高一 伊藤由加里  
 所ハ遊目騁懐足以極視  
 聽之娛信可樂也

中日新聞社賞 高一 出口 藍子  
 筆神窮晉髓

- 花井 里帆 中根 千明 河合 里咲 加藤 大暉 村瀬 志歩
- 浜島里沙子 山下 栞 鷺尾 千歩 柘植 結菜 内田 舞香
- 安井 碧 花井 夏帆 鳥居 まみ 伊藤 響
- 藤原裕希子 加川 澁 清水 梓沙 大津 朋香
- 武田 佳子 水野 咲 寺西 奈央 加川 彩乃 桐山 彩華 田中 海斗
- 小林田香莉 杉山 由起 杉浦 成美 前田和佳奈 浅井 萌絵 早川 聡
- 山口 真由 高畑 美里 龜井 孝晃 山盛可菜子 木村 梨穂 林 沙織
- 松川 夢香 馬淵みちる 中谷 愛音 山田 実央 平岩笑来歩 榊原由梨佳
- 菅沼 きこ 新谷 美月 川島万由子 長脇 彩夏 土屋 知香
- 田中 希歩 赤田 奈優 林 佳穂 深谷 汐音 土屋 地弘 仁村 千乃
- 戸田 一志 高山 美樹 中原加奈子 岩下 風花 坂井 佑光 北田 美紀
- 服部 伊吹 河井 優 長井 彩香 篠瀬 蓮 安田 麻央 落合 輝
- 古田 和也 廣江 舞 横山 尚輝 高橋沙也佳 木和田千尋 畔柳佳乃子
- 石橋 咲良 川口ひかり 服部 美鈴 水野 亜美 武藤加奈子 大木 優奈
- 加藤 光江 永井 彩琳 趙 泰栄 田中 芽依 伊藤 叶 吉野日向子
- 高校一年 安藤 涼子 八木 清香 増田みなみ 岩本 真弥 平田さくら 伊藤 楓
- 西川 陸 柴田 麻結 加藤奈々静 梶川 彩香 森野 可楠 勝野 友理
- 本田 貴凡 村井 見名 杉浦 果奈 浅野 有紀 打田 健 小川 真由
- 岩田 明里 相馬 志保 二村夏乃子 井上 允崇 桑原 萌花 安井 稚乃
- 大野 綾子 安藤沙也加 三浦 健吾 竹下 葵 藤田 希 早川 莉沙 三浦 千佳
- 米山くるみ 山中 明音 岩瀬 優 服部 咲希 藤田 希 安江 風沙
- 酒井 彩加 山田 隆以 河辺 茜 岩田万智子 堀田 裕介 土方 薫
- 小林南帆香 安田 祥隆 小林 紗英 小林 加奈 石倉 璃子 田中 佑佳
- 白木 伶奈 野川 三奈 佐藤 鳴海 都築 成美 原 さやか 河本 菜々
- 長谷川紗希 加藤 理恵 坂口 昌寛 市川 華実 井上 文佳 宮田菜々咲
- 田瀬 瑞季 松井 佑太 博多 祐万 石川 千尋 花木 綾那 村上 裕梨
- 水谷 珠乃 山田 聖馬 酒井朋華 井村 春菜 山口 将弘 武内芳乃香
- 水谷 舞子 三石 樹奈 坂本 麗菜 三矢 若沙 安藤 理香 濱野 唯
- 山口 菜美 天野 真宏 森 瑛子 川村 誠 鹿島 健人 内山 泰恵 田中さくら 伊佐治真帆
- 小島理紗子 川村 瑛子 山本 笑美 今井 星来 浅井 理子 黒川 萌絵 松崎 華子
- 伊藤万里奈 児玉妃奈香 廣瀬 光雪 飯沼 弥由 藤江 美羽 戸田 愛美 横井 里佳 中村 友香
- 戸本 好美 廣瀬 光雪 飯沼 弥由 藤江 美羽 戸田 愛美 横井 里佳 岡田 望愛
- 島戸 涼太 廣瀬 光雪 飯沼 弥由 藤江 美羽 戸田 愛美 横井 里佳 岡田 望愛
- 加藤 未紗 廣瀬 光雪 飯沼 弥由 藤江 美羽 戸田 愛美 横井 里佳 岡田 望愛
- 小坂井しほ 廣瀬 光雪 飯沼 弥由 藤江 美羽 戸田 愛美 横井 里佳 岡田 望愛
- 久田 千聖 廣瀬 光雪 飯沼 弥由 藤江 美羽 戸田 愛美 横井 里佳 岡田 望愛
- 鈴木あんり 廣瀬 光雪 飯沼 弥由 藤江 美羽 戸田 愛美 横井 里佳 岡田 望愛
- 中学二年 中村 しほ 中村 美菜 内藤 あや 坪井 春菜 鈴木 翔也 片岡 萌加
- 上ヶ平瑠奈 都築 由花 中澤 佑紀 鈴木 愛理 廣瀬 光雪 飯沼 弥由 藤江 美羽 戸田 愛美 横井 里佳 岡田 望愛
- 鈴木あんり 廣瀬 光雪 飯沼 弥由 藤江 美羽 戸田 愛美 横井 里佳 岡田 望愛
- 仲 葉里 廣瀬 光雪 飯沼 弥由 藤江 美羽 戸田 愛美 横井 里佳 岡田 望愛
- 廣瀬 光雪 飯沼 弥由 藤江 美羽 戸田 愛美 横井 里佳 岡田 望愛
- 飯沼 弥由 藤江 美羽 戸田 愛美 横井 里佳 岡田 望愛
- 藤江 美羽 戸田 愛美 横井 里佳 岡田 望愛
- 戸田 愛美 横井 里佳 岡田 望愛
- 横井 里佳 岡田 望愛
- 岡田 望愛
- 片岡 萌加
- 加藤 有希
- 馬場 成美
- 清水 柚衣

<p>中日新聞社賞 中三 濱田菜々子</p> <p>理想の實現</p>	<p>中日新聞社賞 中三 堤 帆菜</p> <p>龍池望五雲</p>	<p>中日新聞社賞 中三 嶽本 美穂</p> <p>新春福祿寿</p>	<p>中日新聞社賞 中三 小田 亜希</p> <p>瑞雲富士嶺</p>	<p>中日新聞社賞 中三 小栗圭太郎</p> <p>躋攀彼嶺</p>	<p>中日新聞社賞 中三 大沢瑛里奈</p> <p>龍翔鳳舞</p>	<p>中日新聞社賞 高一 吉川 綾華</p> <p>筆毫開雲墨華濃</p>
---	--	---	---	--	--	---

<p>中日新聞社賞 中一 高尾萌々乃</p> <p>未知に挑む</p>	<p>中日新聞社賞 中一 大竹 杏奈</p> <p>龍起雲驚</p>	<p>中日新聞社賞 中二 渡辺 萌音</p> <p>新春の天地</p>	<p>中日新聞社賞 中二 福田 梨乃</p> <p>賀蘭汗造</p>	<p>中日新聞社賞 中二 小川 文菜</p> <p>和氣万家春</p>	<p>中日新聞社賞 中二 岡村実花子</p> <p>國造石蜜</p>	<p>中日新聞社賞 中三 古田 真葉</p> <p>国際交流展</p>
---	--	---	--	---	--	---

- |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 平野 楓佳  | 立崎 李耶 | 村上 慧吾 | 瀧口 伊織 | 水野 森彩 | 布垣 梨乃 | 野村 愛里 | 市橋 篤典 | 岩田 和  | 奥村 友麻 | 早野 友帆 | 西嶋佳那子 | 野尻 夏帆 | 吉田愛理沙 | 大塚 友貴 | 加藤 幸子 | 濱島 頼子 | 佐藤 実紗 | 西野紗菜美 | 中野 翔太 | 川野辺桃香 | 寺尾 ゆり | 白木 絢野 | 渡辺 望  | 佐藤 真綾 | 新井 千晴 | 長谷川愛実 | 前川 優平 | 堀田 花音 | 吉川 賢伸 | 石山 祐希 | 大城 美佑 | 伊左治桜太 | 富田 真帆 | 石田 彩華 | 伊藤 菜月 | 佐藤 七香 | 山本 京香 |
| 木内 愛佳  | 大井 真裕 | 岡本 奈子 | 舟橋 一輝 | 野村 奈央 | 松原 佐和 | 伊藤 知香 | 千葉 由佳 | 福田真名実 | 梅田 莉奈 | 中山 裕太 | 高木 勇希 | 前田 由稀 | 近藤 葵  | 小川 葉奈 | 浅井 優香 | 長崎 未奈 | 愛葉 優斗 | 金子 榛奈 | ○中学一年 | 西野 比菜 | 渡邊 修平 | 小椋 愛実 | 森 祐太  | 川上 風音 | 渡辺ほのか | 都筑 史佳 | 阪井 真帆 | 蛭川 真由 | 山口 拓登 | 宮川 瑞季 | 関本 萌那 | 岡安 未来 | 北野 陽香 | 山本 和輝 | 大橋 実歩 | 井上 由貴 |       |
| 大藪稜二郎  | 菰田 昇馬 | 谷 春花  | 尾身 琴音 | 坂下真菜恵 | 伊藤菜々子 | 尾関 咲子 | 加藤 理乃 | 岡田 花音 | 森山 水稀 | 岡田 真奈 | 井上 葉瑚 | 井上 開登 | 戸澤 晃輝 | 濱田 紗希 | 高柳 海斗 | 白井 遥菜 | 大塚 華帆 | 稲垣 真緒 | 佐原 遥  | 河合 咲良 | 金川 春奈 | 鈴木なつ子 | 浅井 紀香 | 鈴木 沙弥 | 中嶋 耀大 | 浮貝 真由 | 平原 耀子 | 鈴井 貴絵 | 坂 卓磨  | 榊原 渚彩 | 川島 早稀 | 栗木 将弘 | 吉村 美咲 | 佐野真友香 | 酒井 愛実 | 池之上美玖 | 水野 愛  |
| 立元 萌々花 | 川口 実咲 | 辻 華緒里 | 金森 彩音 | 中條留美奈 | 川尻 理華 | 野口 彩希 | 西畑 茉夏 | 福田 雪穂 | 浅見奈央子 | 伊藤 愛梨 | 岡本規由紀 | 加藤 直樹 | 目黒 秀磨 | 渡邊美優果 | 岩月亜希子 | 鈴木 彩香 | 中村 静花 | 田村奈津未 | 黒野ゆきな | 玉岡 佑晟 | 井田 百音 | 米山 雪菜 | 藤澤 和  | 石黒 真輝 | 中嶋 耀大 | 浮貝 真由 | 菅橋和香奈 | 笹野さくら | 峯野 紗英 | 西川 未彩 | 清水祐貴子 | 一瀬明日香 | 牧 大裕  | 渡邊 琴音 | 加藤 愛音 | 宮園 愛  |       |



アトリウムでの展示風景

- |       |       |       |       |       |       |      |       |       |       |       |       |       |       |       |      |       |       |      |       |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 山内理紗子 | 原 みさと | 堀田 真由 | 伊藤 菜月 | 尾崎 青空 | 深谷 幸歩 | 太田 遥 | 池田龍之介 | 廣瀬 莉緒 | 若原 彩香 | 小中 万依 | 柴田奈津希 | 永野 智子 | 丹羽ひかり | 谷口 愛華 | 鈴木 葵 | 入交 優輝 | 松井 愛弥 | 青山 楓 | 谷澤 晴菜 | 古瀬 愛子 | 櫻井 愛子 | 梅村恵瑠萌 | ○小学六年 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|

中日新聞社賞 中一 山田 歩実  
**花登玉楼春**

中日新聞社賞 小六 濱口 舞  
**青雲の志**

中日新聞社賞 小六 村尾 亜子  
**希望の春**

東海テレビ放送賞 中三 楠 若菜  
**鄰國傾慕**

東海テレビ放送賞 中三 田淵 冴子  
**鶴帯仙雲舞**

東海テレビ放送賞 中二 岩田 侑子  
**春風生福寿**

東海テレビ放送賞 中二 寺井 萌未  
**太和呈景運**

東海テレビ放送賞 中二 牧野 詩乃  
**友好を深める**

東海テレビ放送賞 中二 水島 佑実  
**輝く明日**

東海テレビ放送賞 中一 鈴木 智子  
**光風動春**

東海テレビ放送賞 小六 鈴木 理捺  
**少年大志**

東海テレビ放送賞 小六 田中 佑奈  
**銀世界**

東海テレビ放送賞 小五 石井 花  
**清新の気**

中部日本放送賞 中三 西原 希美  
**山青花欲燃**

- |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 加藤 敦也 | 大口歩野佳 | 清水 要介 | 西村 香乃 | 細川まなか | 井畑 綾乃 | 白石 大智 | 山中 夏鈴 | 梅村 若奈 | 内藤 輝  | 江尻ことの | 清水 優希 | 竹中 萌華 | 山田 彩夏 | 菊田 璃奈 | 伊藤 愛莉 | 箕浦 貴大 | 高坂日菜子 | 刑部倅太朗 | 藤井 結愛 | 柴田 一輝 | 板倉 禪  | 片山 沙弥 | 早川 赤花 | 清水 美早 | 世古麻伊亜 | 白澤 来  | 石黒 萌香 | 野々山実来 | 塩谷 和寛 | 玉田 絵里 | 坂下 舞  | 久保村優衣 | 神野沙也佳 | 中村 柚果 | 篠原 和真 | 石井 麗  |       |       |       |       |       |       |       |       |
| 春田 玲奈 | 間瀬 絢斗 | 高橋 里奈 | 山本奈々江 | 神谷 優奈 | 森 愛葉  | 山本 麻衣 | 伊藤 汐那 | 伊藤 琉斗 | 近藤 咲  | 石黒 菜緒 | 奥村 夢奈 | 大村 有未 | 佐久間文哉 | 松下 優  | 水野 文葉 | 佐々木麻衣 | 寺田 彩音 | 山下 玲奈 | 赤波江玲奈 | 桜井 紀子 | 桑原 紗香 | 鈴木那悠太 | 寺本和香菜 | 大津 唯奈 | 林 江里桂 | 水谷亜華里 | 岩田明寿香 | 高橋 竜也 | 足立明加理 | 丸山 颯太 | 宮崎 由奈 | 鈴木 勇人 | 弓 万里奈 | 保坂 菜摘 | 河村沙也香 | 松森 美紅 | 城内 薫乃 |       |       |       |       |       |       |       |
| 鵜飼 和  | 福井 亜弥 | 坂山 葵匠 | 西野ちなせ | 山本梨花子 | 大谷 周平 | 山本 果歩 | 益山 優花 | 塚野 佑介 | 東 夏梨  | 北川 史織 | 大野 敦子 | 近澤 瑠夏 | 生川 真衣 | 余吾祐貴子 | 大沢 朋徳 | 石原 虹歩 | 伊藤 優花 | 上原 悠莉 | 青山 紋女 | 河原崎真有 | 田口 莉子 | 戸梶 莉子 | 堀田 敦嗣 | 堀田 敦嗣 | 村田 真悠 | 鈴木 峻介 | 船橋 新  | 三浦 美桜 | 中山 涼捺 | 不破 拓也 | 恩田 昂輝 | 金澤 美優 | 三浦 可琳 | 加子 華  | 藤井 里歩 | 水野 碩也 | 新井 彩乃 |       |       |       |       |       |       |       |
| 加藤 美咲 | 倉地 夏菜 | 玉岡奈乃羽 | 加藤 亜美 | 河村 莉子 | 重松 想葉 | 佐原 由真 | 可知穂菜美 | 増田 紀花 | 北野 愛珠 | 伊藤 颯  | 森 友里朱 | 高松 宣道 | 三宅 咲幸 | 宇佐美芙佳 | 河村 紗希 | 内藤 佑騎 | 堀池朱日菜 | 青木 星佳 | 川井 真歩 | 島田 歩実 | 平松 延章 | 平松 孝章 | 石川 ゆい | 江口 直伽 | 高浦 真帆 | 安藤 里紗 | 野田 玲依 | 児玉亜衣香 | 後藤 唯華 | 神谷 彩名 | 大島 史陽 | 神谷 桃羽 | 金野 信之 | 渡辺 琴音 | 加藤 雅隆 | 吉見朱日佳 | 高羽 浩矢 |       |       |       |       |       |       |       |
| 山田あゆみ | 安田 拓馬 | 鈴木 沙耶 | 寺田 颯馬 | 西尾 友花 | 柴山 遥香 | 杉本 理紗 | 岩田 怜奈 | 宮川 芽依 | 川村 彩華 | 上野 涼葉 | 杉山 未紗 | 岩田 享子 | 波多野未帆 | 佐藤 愛美 | 小坂 理乃 | 水野 希香 | 柿谷 優里 | 龍尾 柚紀 | 太田 香湖 | 高橋菜南子 | 羽田 星来 | 渡辺 侑平 | 中瀬 未夢 | 伊藤野々花 | 阪口 由依 | 鈴木 愛乃 | 神代 浩志 | 山之内湧琉 | 永井 優衣 | 児玉 由愛 | 中村 勇斗 | 桜井 彩乃 | 中郷 柚花 | 芳賀慎之助 | 佐藤 菜保 | 太田 美結 | 佐藤 舞奈 | 杉浦 遥香 | 安井 彩乃 | 加古 寅起 | 松島 莉子 | 古田 壮吾 | 野本 行哉 | 橋本 彩世 |



アトリウムでの展示風景 (3階より撮影)

中部日本放送賞 中二 太田 笙那

# 力強い前進

中部日本放送賞 中二 山本 真由

# 天然記念物

中部日本放送賞 中一 桑山 有倭

# 新春松竹梅

中部日本放送賞 小六 岩内すみれ

# 松の内初雪

中部日本放送賞 小六 久徳 あい

# 春風万里

中部日本放送賞 小六 中村 安希

# 少年大志

中部日本放送賞 小五 清水 美帆

# 新春の光

中部日本放送賞 小四 大迫 佳苗

# 山里の春

中部日本放送賞 小三 平本 啓恭

# 平和な春

○小学二年

上村 壯汰 庄田 乃絵 伊藤 千乃 井上 世理 片山 侑花 水野 沙紀 南谷 知諒 ○小学三年 大野 楓華 中島 未来 尾畑 秀成 伊勢 美優 田中 楓乃 岡田 遥香 野田 歩夢 松尾 凪倅 浅井 省吾 宮崎亜弥子 中野まりん 日比野凌大 鈴木 勇登 富田 実佑 桑原 桃香 柳詰 由乃 小沢 大仁 石田 将大 山田 琴里 高橋 紅有 伊藤 柚穂 志村 早絵 吉川 雲母 伊藤 杏華 安藤 碧唯 神谷 拓海 平岩未希子 平林 愛友 古市 紗子 佐藤 璃子 山崎 春奈 西村 美咲 寒河江真菜 稲垣 来美 吉田 涼翔 鈴木 遥菜 柴田 留奈 太田 千晴 山口紗也加 小林みのり 白鳥 未悠 鷺見 有泉 榊原 光輝 渡辺 舞雪

○小学二年

遠藤 仁 新井本和花 加原 里桜 眞名子智仁 名知萌々香 塚本 凌香 飯阪 彰子 石川 綾乃 庵 百花 恒川 奈弓 小坂浩太郎 井尻 朱音 羽飼 千彩 中村野々夏 西脇 有紗 山本 桐子 田上あすか 吉田ゆりこ 長谷川実咲 北本 夢乃 石倉 あみ ○小学一年 恩田 峻弥 石早 蕉 稲山 京香 藤村 真央 南谷 妃花 福永 桃子 倉田 航輔 早稲田愛子 平野 愛実 ○幼年 上野 友陽 久野 真子 小野木美和

### ◆団体賞

- 第一位 牛 刀会
- 第二位 童 友会
- 第三位 書 玄会
- 第四位 墨 游会
- 第五位 牧 書会

五一〇〇名を超える方に御観覧いただき、

ありがとうございます

## 第六十三回中日書きぞめ展を終えて

教育部長 後藤啓太

本年も名古屋栄 矢場町ナディアパーク二階「アトリウム」にて作品展を開催いたしました。

会場の「アトリウム」は、ナディアパークの商業施設である「ロフト」に隣接しています。買物目的のお客様も作品展にお立ち寄りいただき、多くの方に学生作品をご覧いただきました。出品している学生さんのご家族はもとより、一般のお客様からも「素晴らしい作品ばかり」と感嘆のお言葉をたくさんいただきました。今後とも本会の若い素晴らしいパワーを内外にアピールして参ります。

ご協力いただきました会員の先生方および協賛会員の方々に、厚くお礼を申し上げます。

今後とも、ご支援ご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

## 中日書きぞめ展授賞式を終えて

褒賞部長 武内峰敏

今年は桜の開花が例年よりも早く、受賞者を祝うかのように咲き始めました。お天気にも恵まれ、五〇〇席の会場にも笑顔の花が咲き、多数の受賞者保護者の方々に埋め尽くされ、第六十三回中日書きぞめ展授賞式が盛大に開催されました。

鬼頭翔雲理事長から学生時代の書との係わりのお話を交えて、受賞者へお祝いの言葉をいただき、授与式へ進みました。団体賞、文部科学大臣賞から理事長賞まで一七〇余名、一時間にわたり大きな拍手のなか、授与が粛々と行われました。先生方にも多数ご出席いただき、ありがとうございました。



# 支部だより (下半期)

## 一宮支部

### ●研修旅行

日時 十月二十八日(日)

行先 奈良

参加者 六十九名

七時にバス二台に分乗した二行は、名阪自動車道で飛鳥路に向いました。薬師寺参観の後、奈良国立博物館で「正倉院展」を参観し、帰途出発の午後五時まで奈良公園中心に深まる秋の自由散策を楽しみました。

●第五十八回一宮支部展  
会期 十一月二十四日(土)～二十五日(日)  
会場 一宮スポーツ文化センター  
出品者  
支部員 二一六名  
青年部 一〇五名  
芸術祭参加事業の一環としての支部展。本部の鬼頭理事長先生はじめ、後藤、松永、関根の各副理事長先生に出品していただき、更に支部員その他、次代を担うフューチャーズ(青年部)が、四団体九十七名、個人八名が出品参加して一層盛り上がり事ができました。

### ●第四十一回

一宮支部学生書道展

支部展と同時開催  
出品者 三八九名  
恒例の学生展、指導



学生書道展



支部展

者の作品を観た後に学生展を観るコース設定をし、最後に新しい年のカレンダーに好きな字を書き持ち帰っていただきました。

### ●講演会

日時 一月二十七日(日)

会場 一宮スポーツ文化センター

講師 元学芸員 毛受英彦先生

演題 「森・春涛とゆかりの人々」

聴講者 一七五名(一般四十一名)

一宮の生んだ漢詩人で、明治維新後の日本漢詩壇をリードした人と言われている。プロジェクトを使用した講演で分り易く聞き入りました。

### ●支部集会・交流会

日時 一月二十七日(日)

会場 一宮スポーツ文化センター

交流会 真清田神社・参集殿

参加者 一三四名(交流会 一二八名)

集会は本部より関根副理事長、横井企画部長のご臨席を頂き、報告事項と、二十五年度の事業計画が承認されました。役員改選では、次期支部長に岩田潤流氏を選出致しました。

交流会は本部の先生をはじめ、市長、国会議員、県会議員、教育長等々多くの来賓の出席を仰ぎ、盛大に開催致しました。

### 支部集会



田中翠穂先生の「阿彌陀様の柔和な笑顔を拝見できただけでもここへ来た甲斐があった」と

## 半田支部

### ●研修旅行

日時 十一月十八日(日)

行先 墨の資料館(握り墨体験)

奈良国立博物館・杉岡華邨美術館

参加者 四十三名

にぎり墨——煤をニカワ汁で溶き、香料を加えて固め墨を作るなどということを一体いつ誰が考えたのか。そしてそれを硯で擦れば濃淡自在の墨液ができ、水墨画に典型的なように技術次第で色彩感や光さえ感じさせる表現が可能。墨とは不思議な物体である。墨に限らず、私たちが日常何気なく使っている文房四宝のそれぞれに不思議さはひそんでおり、背後には蓄積され継承されてきた職人の技術経験がある。ほどなく届く「握り墨」を擦る時、そんなことを思ってみるのも悪くない。

奈良国立博物館——大小様々な仏像(その数の多いこと)と青銅器のみの展示。

仏像の作者名に運慶・快慶の名が幾つも見られた。運慶・快慶といえど金剛力士像で名高い彫刻家とつい思ってしまうのだが、ああ二人はまず仏師だったのだと認識を新たにした。

田中翠穂先生の「阿彌陀様の柔和な笑顔を拝見できただけでもここへ来た甲斐があった」と

の言葉が深く響き、自分の浅薄を恥じる氣持が湧いた。十七・十八の両日は「関西文化の日」ということで博物館・美術館等の入場料がすべて無料になっており、旅行会計は大助かり。



研修旅行

●講演会  
日時 三月三日(日)  
会場 雁宿ホール  
演題 「文房四宝——尾張徳川家伝来の唐墨を中心に——」  
講師 徳川美術館副館長 四辻秀紀先生  
徳川美術館には明時代の墨だけでも五百丁が収蔵されているという。「駿府お分け物」と呼ばれる家康の遺品を中心とするそれらは単なる書道用品ではなく、工芸美術品として高い価値を持つ。王侯貴族の文人趣味はさりげなくしかし贅を尽くす。清貧を重んじる禅の心から王侯貴族の豪奢まで書の世界の幅は広い。真の宝物である墨のカケラで試られたという発墨の写真はしかし美しかった。



講演会

### ●支部集会

講演会に引き続き開催

参加者 六十八名

恒例の事業・会計の報告、事業計画(案)、そして本部の新定款に沿っての支部規約一部改正まで肅々と審議承認された。

役員改正については銚衡委員会が例年になく長びいたが、次期支部長として山内江鶴氏が指名され、論議なく本人の受諾を得た。

西三河支部

●第四十五回記念支部会員展

会期 二月二十日(水)～二十五日(日)  
 会場 岡崎市美術館  
 出品数 二二四点  
 入場者 一、一七四名  
 本部より名誉副会長樽本樹郎先生、鬼頭翔雲理事長、後藤汀篤副理事長、松永清石副理事長、関根玉振副理事長の賛助出品をいただき盛大に開催することが出来ました。



支部会員展



学生書道展選抜展

●記念事業学生書道展選抜展

会期 二月二十日(水)～二十五日(日)  
 会場 岡崎市美術館  
 出品数 四七一点  
 入場者 九二二名

●四十五周年記念講演会

日時 二月二十三日(土)  
 会場 岡崎市商工会議所  
 参加者 一四七名  
 名誉副会長 樽本樹郎先生をお招きし、「宋代の書について」と題し、講演していただきました。



支部集会



講演会

●交流会

日時 二月二十三日(土)  
 会場 岡崎市商工会議所  
 参加者 一二四名  
 樽本樹郎名誉副会長、鬼頭翔雲理事長、後藤汀篤副理事長、松永清石副理事長、関根玉振副理事長、伊藤昌石事務局長のご臨席をいただき和やかな懇親会になりました。今年度は四十五周年で、日ごろ学生書道展にご尽力いただいた人たちに支部長より記念品が贈呈されました。今回も「難民の子供に幸せを」と中日新聞岡崎支局長に寄りました。

●支部集会  
 日時 二月二十三日(土)  
 会場 岡崎市商工会議所  
 参加者 一一一名  
 本部から鬼頭翔雲理事長、後藤汀篤副理事長、松永清石副理事長、伊藤昌石事務局長にご臨席を賜り、平成二十四年度事業報告、収支決算報告、平成二十五年度事業計画、規約改正を提案し全員一致で承認されました。又役員改選で、丹羽常見支部長再選がなされました。



中日新聞へ寄託



じゃんけんゲームの交流会



花を添えてくれた琴の演奏

東三河支部

●研修旅行

日時 十月二十八日(日)  
 行先 常滑市INAXライブミュージアム  
 「タイル絵付け体験」  
 参加者 三十名

INAXライブミュージアムには「世界のタイル博物館」「窯のある広場・資料館」「建築陶器のはじまり館」「土どろんこ館」「陶楽工房」「ものづくり工房」があり、見学や体験を楽しむことができました。到着後、早速陶楽工房にてタイルの絵付け体験に挑戦しました。十五センチ四方のタイルに、やきもの用の絵の具を使って思い思いの画や文字を描きました。作品は一ヶ月後に手元に届くことでした。その後は



タイル絵付け体験風景



研修旅行

常滑市内のまるふくにて昼食をとりました。ゆっくり昼食をとった後は、陶磁器会館を出発、土管坂や登窯、煙突のある風景やギャラリーを楽しみながら「やきもの散歩道」を三々五々散策しました。

●支部選抜展

会期 二月十二日(火)～十七日(日)  
 会場 豊橋市美術館第三室  
 出品数 五十五点(各社中1/3名)  
 入場者 一一三〇名



選抜展会場風景

今年度は、豊橋市民文化会館から豊橋美術博物館に会場を移し、東三河支部選抜展を開催しました。各社中三分の一の会員の出品に加え、顧問、参加の先生方にも玉作を出品していただき、個性あふれる作品が並び、見応えのある展覧会になりました。地元の書道を愛する方々はもとより、中日書道会本部の先生方にも遠路ご来場をいただき、ご指導を賜りました。出品者一同、思いを新たに、無事選抜展を終えることができました。

濃飛支部

●研修旅行

目を見張る古谷蒼韻展

十月二十六日(金)早朝下呂を出発したバスは中津川、恵那で会員を乗せ、中央道恵那ICから名古屋ICまで走りまわりました。松坂屋前で下車し南館七階の松坂屋美術館へ急ぎました。楽しみにしていた古谷蒼韻展を観るためです。会場には八十点余りの作品が展示されていました。初期から最新作まで作者の軌跡が解説つきで解り易く展示されていました。筆と墨と紙、心と命表現が一体となって躍動している様に感じました。長い間の書活動の多様さと学びの深さを思い、自分の書に向き合う甘さと拙さを思い知らされました。見る程に胸に迫るものがあり、離れ難かったのですが予定の時間が来てしまい後ろ髪を引かれる思いで会場を後にしました。

次の予定地は徳川園です。徳川園なら車椅子の永治先生でも参加して戴けるかなどの全会員の思いから計画したのですが、先生には来て戴けず残念でした。昼食時でもあり園内のレストランでフランス料理を戴きました。館内では徳川將軍のお成り展が催されていました。そ



の後庭園内を自由散策しました。ここではゆっくり時間がとれましたので蒼韻展にもっと時間をとれば良かったと思いましたが。参加者は二十一名。会員外の方の参加も六名ありました。バスの中では和やかに交流を深めることが出来ました。

●役員会・企画委員会

役員会

十二月三日(月)

広報編集について  
研修旅行の反省

一月二十日(日)

広報編集  
(おおよそ決定)

二月一日(金)

広報発行  
来年度事業計画

企画委員会

来年度役員改正の件

いずれも出席多数で熱心に話し合われました。

北勢支部

●研修会

今年の研修会は十一月十一日(日)に京都のバス旅行でした。当日は朝から生憎の雨で、多少のハプニングもありましたが、参加者三十二名で無事に終了しました。

先ず相国寺承天閣美術館にて「最後の文人會津八一の世界」を鑑賞。京都では六十年ぶりの會津八一展ということでも雨にも係わらず客足は途絶えること無く、奈良歌を揮毫した書作品をはじめ東洋美術史の教材として収集した中国美術品等も多く展示され学ぶところの多い展覧会でした。次いで京都国立博物館で開催の「宸翰天皇の書」では、歴代の天皇のプライベートなものから国家の安泰を願うものまで気品と風格をそなえた書を堪能しました。また東山・高台寺、ねねの石畳道、二年坂、三年坂地区にて自由散策を楽しみました。終日雨で



研 修 会

あったものの、やはり京都は何度訪れてもその時その時の風情があり歴史と伝統が今もしっかりと伝えられている街であると改めて感じました。  
(荒木友梅記)

●講習会

日 時 二月十七日(日)

場 所 じばさん三重

参加者 九十五名



講 習 会

昨年続き「文房四宝」の第二弾「筆」をテーマに、一休園会長の久保田哲暁氏をお招きし、ご講演いただきました。

ビデオで筆作りの様子を視聴した後、筆の原料、種類、見分け方等をわかり易く解説して頂き、普段使い慣れた筆を改めて見直す機会となりました。そして、熊野筆発展の経緯や、伝統産業としての熊野筆が書道芸術に貢献している事も理解出来ました。

会場は一般参加三十二名を含め、熱心に聴き入る姿で溢れ、又、四日市ケーブルテレビの取材もあり、後日放映されました。

(伊藤伸亭記)

中南勢支部

●研修旅行

日時 十月七日(日)

秋日和、一行三十七名で湖西、西教寺へ。明智光秀の菩提寺である。本山にしては控え目な門構えの奥に堂々と静かな威厳のたたずまい。本堂には阿弥陀如来像を安置。その御前でひとしきりその由来と法話をお聞きし、心に沁みるような感銘を受けた。案内の僧の後を本堂から書院をひと廻りし、人生の意味のなんたるかを思った。午後、比叡山延暦寺へ。バスを降りると下界とは異なり澄み切った秋の冷気。千二百余年の修行の歴史を湛え、根本中堂は幽玄の美。本尊は薬師如来。回廊にはおびただしい学童の書。しつとりとした豊かな時が流れた。さらに、山頂のガーデンミュージアムに向かう。眼下に琵琶湖、西には鞍馬の連山を借景に、秋の草花が咲き乱れていた。(菅生囃堂)



研修旅行

●支部集会

日時 十二月二日(日)

会場 澄懷堂美術館 視聴覚ホール  
参加者 四十名  
内容 事業報告・会計報告・その他  
本部より渉外宣伝部長・岡野楠亭先生、編集部長・工藤俊朴先生、北勢支部長・平野公慎先生に御臨席頂き、無事終了させて頂きました。

●講演会

支部集会後、四日市澄懷堂美術館学芸課管理主任の井後尚久先生による「明清の書

画について」のご講演をいただきました。



講演会

「澄懷とは」から始まり、唐から明代に至る中国書画の収蔵過程や古硯の収集、収蔵作品の多くが紙のため湿度、温度管理は必須。そこで冷暖房が必要な季節は閉館し、作品を保存。円形に設計されたビルは展示品全体が見渡せるように、更に最上階は他のフロアより天井が高い、収蔵品には非常に大きな作品もある。今期の展示作品については一点一点先生の説明を詳細にご教授いただきながら鑑賞させていただきました。作品には各々歴史があり、その時代に思いをはせる事や、二セモノでもよい、研究を重ね、目を養うことが大事だと言われました。今後は心を静かに澄ませて一つでも多くの作品を鑑賞したいと思えます。(中村翠雲)

●第二十六回中南勢支部展

一月二十四日(木)より四日間、三重県立美術館にて開催されました。本部の先生方の作品と、私たち中南勢支部会員、そして広く一般の方から出品された作品(若年を含む)九十七点が会場を飾りました。



支部展

陳列の最中にこの展覧会を楽しみながら見られる方々が見に来られる「明日から開催」と尋ねられていた。姿も拝見しました。この期待に添うべく来年も一月下旬から開催する予定になっています。(谷 鴻風)

岐阜支部

●研修旅行

日時 十一月二十三日(金・祝)

行先 伊勢神宮・神宮美術館、せんぐう館  
参加者 三十五名



研修旅行

今年、伊勢神宮の大神事、二十年に一度の式年遷宮が十月に執り行われます。外宮にある資料館「せんぐう館、美術館」へ参加者三十五名がバス一台で訪れました。

せんぐう館では、神宮の建築様式「神宮造」の構造、式年遷宮に拘る様々な神事をハイビジョン映像、小型模型等で紹介され詳しく解説されていました。

鮮やかな紅葉と、満開の四季桜の見事なコントラストの風景、良く整備された美しい庭園の一郭に神宮美術館があります。

館内には、当代を代表する文化勲章受章者、文化功労者、日本芸術院会員の多くの作家より奉納された書、絵画、彫塑などの素晴らしい作品群を觀賞しました。

その後、伊勢神宮を拝観、おかげ横丁でショッピングを楽しみ、身も心もリフレッシュ。参加者一同とても有意義な至福の旅でした。

●チャリティー愛の募金

十二月二十五日(火) 岐阜市役所「元氣なぎふ応援基金(教育、生涯学習、文化芸術振興に関する事業)」

岐阜支部長代行と、事務局担当次長二名が十万円を寄付。

●役員会議

三月十七日(日) 午後三時三十分

十三名出席

●事務局全体会議

三月十七日(日) 午後五時、十六名出席  
平成二十四年度の事業報告、決算報告。  
平成二十五年度の事業計画、予算(案)について。  
右の項目に従って、協議いたしました。



事務局会議